

経営比較分析表（平成30年度決算）

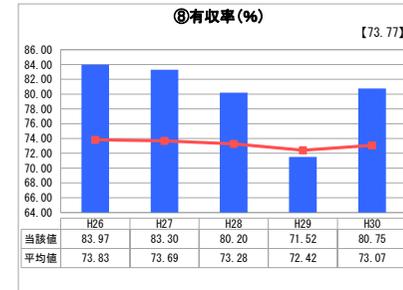
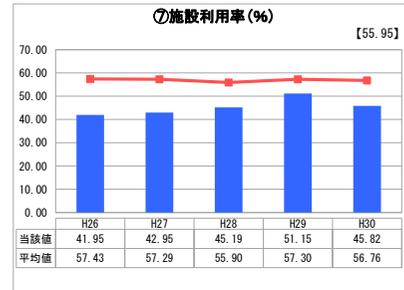
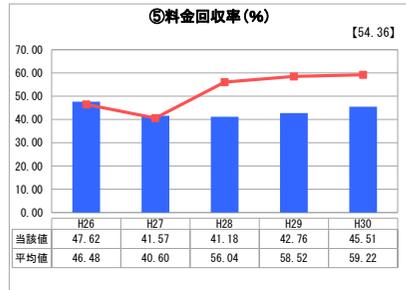
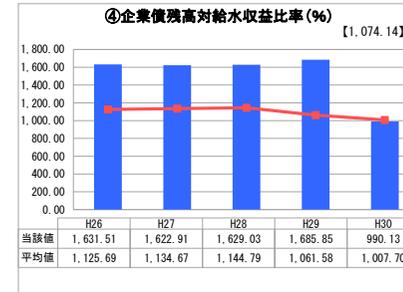
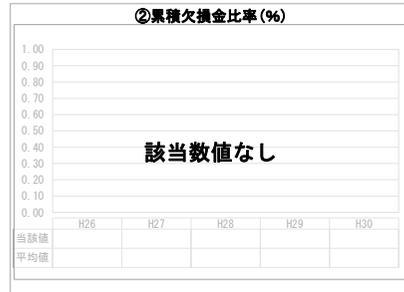
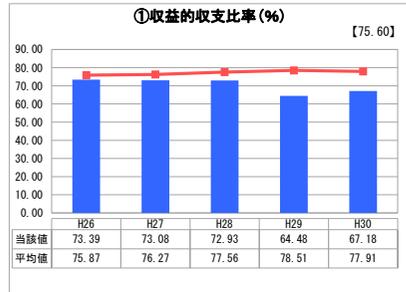
大分県 杵築市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	該当数値なし	10.61	3,080	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,437	280.08	105.10
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,102	22.81	135.99

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[]	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

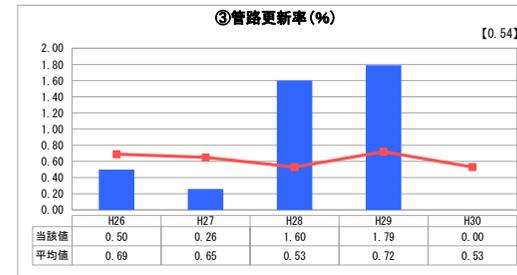
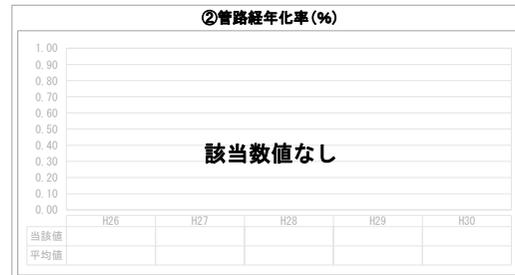
1. 経営の健全性・効率性について

- 『経常収支比率』…経常費用が経常収益でどの程度補われているかを示す指標。全国平均、類似団体平均値との比較では下回っていますが、依然として繰入金に頼った運営となっています。
- 『企業債残高対給水収益比率』…給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。H29との比較では大幅に低下し、類似団体平均を下回っています。理由は、H24からH29にかけて拡張工事を実施した簡易水道事業が、H30に水道事業に統合されたことによる起債残高の減によるものです。
- 『料金回収率』…給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す指標。4割程度であり、給水収益だけでは運営ができません。市からの繰入金に頼った運営となっています。
- 『給水原価』…有収水量1mあたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標。前年並の比率で推移しています。
- 『施設利用率』…配水能力に対する配水量の割合で、施設の利用状況を判断する指標。改善傾向にあるが全国平均を下回っており、効率性は低いといえます。しかし、配水域が山間地であるので地形や点在した集落の形成状況を鑑みれば、やむを得ない状況にあるといえます。
- 『有収率』…施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。漏水等の対策強化により、H29に比べ改善し、類似団体平均値を上回っています。

2. 老朽化の状況について

- 『管路更新率』…当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標。配水管等の管路と一体となったポンプ類の更新を優先したことから、配水管等の更新がほぼ未実施となっています。

2. 老朽化の状況



全体総括

簡易水道は、山間部を中心とした地域を給水区域としており、配水管の布設は自ずと高コストにならざるを得ません。また、給水人口は過疎化により大きく減少しているため、市からの繰入金に頼った経営となっています。今後は、公共の福祉に基づく生活基盤の確保は市の責任であることから、老朽化した施設の更新を進めるとともに、不要な施設の廃止や料金の見直し等を含め、適切な企業経営の探究を図りながら、バランスの取れた経営に向け取り組みを行ってまいります。